



令和7年度 東松山市立南中学校 グランドデザイン

学校教育目標

心を磨き 本気で学び たくましく

学校経営方針

- 生徒一人一人が存在感、成就感をもてる教育活動を展開する。
 - ・「生徒のよさを認め、鍛え、育む」という教師の姿勢と情熱を生徒に伝える。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた特色ある教育課程を確実に推進する。
- 学びの場にふさわしい潤いのある教育環境をつくる。
- 組織の一員としての自覚と責任をもち、協力体制を確立する。
 - ・学年主任、教科領域主任のリーダーシップのもと、組織の一員としての自覚をもって行動する。
- 家庭・地域等と協働体制を整え、ともに歩む学校を目指す。
 - ・学校運営協議会、PTAを核とした家庭・地域との連携を充実させる。

★日常生活の心構え

- 時を守り
- 場を清め
- 礼を正す

<学校の概要>

昭和33年開校 創立68年目
学級数22（特別支援学級4）
1学年 6クラス 222名
2学年 6クラス 210名
3学年 6クラス 215名
生徒数647名

目指す教師像

- 生徒の「よさ」を引き出し伸ばす教師
- わかる授業を創造し、授業で勝負する教師
- 学び続ける教師
- 社会人としての自覚をもった教師

目指す生徒像

- 自他の命を大切にできる生徒
- 自分で判断し行動できる生徒
- 目標に向けて最後までやり抜く生徒
- 自主的・主体的に学ぶ生徒
- 健康で明るい生徒

目指す学校

生徒一人一人が生き生きと輝き存分に躍動するとともに
家庭・地域と信頼の絆で結ばれる学校

<本年度の経営の重点>

- (1) 自他を大切にできる指導の充実に努める。(いじめ防止・不登校支援)
 - ・生徒にかかる課題の未然防止と早期発見・早期対応に向けた組織的な対応
 - ・携帯電話、SNSによるトラブルの防止にかかる指導の充実
 - ・SC、学校相談員、SSW、こども家庭センター、児童相談所等、外部機関との連携による組織的な対応
- (2) ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を得る授業を実践する。
 - ・県学調、全国学テなど、各種調査結果の有効活用
 - ・「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実
- (3) 読書好きな生徒を育成する。
 - ・本を読むことが楽しいと思えるような指導の工夫と時間の確保
- (4) 安心安全な学校生活を確保するための取り組みの充実に努める。自転車の乗り方指導教育の充実を図る。
 - ・様々な場面を想定した避難訓練の実施
 - ・安全な自転車の乗り方指導
- (5) 教職員の「働き方改革」を意識した業務改善に努める
 - ・学校DXの加速（公務支援システムの有効活用）
 - ・職務内容の精選

目指す指導体制

- 1 生徒指導体制の充実
 - (1) 情報連携から行動連携をもとに「毅然、誠実、スピーディー」に対応する。
 - (2) 「突発的なトラブルはなく、何かしらの前兆があり、背景がある」の心構えを持つ。
 - (3) 起こることが予想される問題を防ぐための手立てを積極的に講じる。
- 2 組織力の向上
 - (1) 指導力の向上
 - ①教師の日常の創意工夫、試行錯誤を奨励し、管理職が見守り支援する。
 - ②人事評価面談をもとに、目標や方策に対する追跡指導・評価を行う。
 - (2) リーダーの育成
教務主任、学年・生徒指導主任、保健・進路指導主事が責任と魅力あるリーダーシップを発揮し、組織の中心として活動できるよう指導・支援する。
 - (3) 生徒指導部会、教育相談部会の充実
情報交換、指導・支援体制の充実、関係機関との連携を積極的に推進する。
- 3 危機管理
 - (1) 「小さな苦情を大きな危機にしない」を合言葉に、初期対応に細心の注意を払う。
 - (2) 想定外の危機を想定内にするために、未然に防ぐ手立てを組織的に講じる。
- 4 開かれた学校づくり
 - (1) 学校運営協議会、小学校、PTA、地域各種団体との連携を確立する。
 - (2) 生徒の望ましい成長・変容を伝えることや、様々な意見に対して誠意をもって対応し信頼にこたえる学校づくりを推進する。

本気で学ぶための教育

- (1) 生徒が「考え、話し合い、学び合う」ことができる対話的で深い学びを実践する。
- (2) ICTを有効活用し、主体的に学ぶ姿勢を育てる授業を実践する。
- (3) 各種学力調査の分析から、個々の実態・傾向を把握し、個別指導に生かす。
- (4) 生徒一人一人に応じた、きめ細かな学習相談等を実施する。
- (5) 様々な機会を活用して、個々に応じた補充・発展学習を実施する。
- (6) 読書活動の充実のための様々な方策を実施する。

心を磨くための教育

- (1) 自他の命を大切にできるような道徳の時間、体験活動、学校行事の充実などにより、豊かな人間性や社会性を育てる。
- (2) 規範意識を高め、学習規律や良好な集団づくりを一層充実させ、生き生きと活動する生徒を育てる。
- (3) 社会性を向上させるため、グループエンカウンターをはじめとする、様々なカウンセリング技法を用いた授業を意図的、計画的に実施し、集団生活に適応するための資質や能力を身に付ける。

たくましくあるための教育

- (1) 命の大切さについて、全校を挙げて、様々な機会を捉えて繰り返し指導する。
- (2) 全校挙げて体力や学力の向上を図る機会を設ける。
- (3) 部活動を通して、活動することの楽しさや喜びを味わわせるとともに、技術や体力の向上を図る。